佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２７５集

周防畑遺跡群
道常遺跡Ⅴ

長野県佐久市長土呂道常遺跡Ⅴ発掘調査報告書

2021．3

佐久市教育委員会

例　言

1. 本書は、K’sオフィスが行う宅地造成工事に伴う周防畑遺跡群道常遺跡Ⅴの発掘調査報告書である。
2. 調査原因者　　K’sオフィス　代表　黒澤　周一
3. 調査主体者　　佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び調査面積　　周防畑遺跡群　道常遺跡Ⅴ（ＮＳＤＪＶ）
   ２４５㎡
5. 所在地　　佐久市長土呂字道常１２５４
5. 調査期間　　令和２年４月28日～５月14日（現場発掘作業）
   令和２年５月15日～令和３年３月（報告書作成作業）
6. 調査担当者　　冨沢一明
7. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1. 遺構の略記号は、住居址（Ｈ）・竪穴建物址（Ｔａ）土坑（Ｄ）・周溝墓（ＯＴ）・溝（Ｍ）である。
2. 挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。
3. 遺構の標高は遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」とした。
4. 土層の色調は、1988年版『新版　標準土色帖』に基づいた。
5. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

地山　焼土　須恵器
黒色処理　掘方・灰釉

発掘調査状況

目　次

例言・凡例・目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯
　１．経過と立地
　２．調査体制
　３．調査日誌
　４．遺構・遺物の概要
　５．標準土層
　６．調査の方法
第Ⅱ章　遺構と遺物
　１．竪穴住居址
　２．竪穴建物址
　３．土　坑
　４．溝状遺構
　５．周溝墓
　６．ピット
第Ⅲ章　調査のまとめ

第１図　道常遺跡Ⅴ位置図

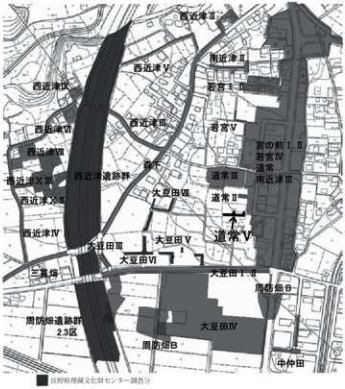
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

1．経過と立地

道常遺跡Ⅴは、佐久市長土呂に所在し、周防畑遺跡群の南西よりに位置する。遺跡は、濁川を望む台地上に立地し、台地周辺の海抜は７０８ｍ前後を測る。

本遺跡の周辺は、中部横断自動車道路をはじめとし区画整理事業や新小学校建設などの各種開発により発掘調査が行われている。特に、中部横断自動車道路の調査では弥生時代後期では国内でも最大級規模となる 18 × 9.5m の竪穴住居が発見され話題となった。また、同遺跡からは布目瓦や平安時代と考えられる銅印「○子私印」も出土している。

今回、遺跡群内においてＫ’ｓオフィスにより宅地造成工事が計画され、市教育委員会に文化財保護法 93 条の届出があった。市教育委員会では試掘・確認調査を行った結果から遺跡の保護措置がとれない道路部分を中心に、記録保存目的の発掘調査を行うこととなった。



第２図　周辺遺跡位置図

2．調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長　棚澤晴樹				
事　務　局	社会教育部長	三浦一浩				
	文化振興課長	東城　洋				
	企　画　幹	岡部政也				
	文化財調査係長	山本秀典				
	文化財調査係	小林眞寿	羽毛田卓也	冨沢一明	上原　学	久保浩一郎
	調　査　員	浅沼勝男	小林妙子	依田好行	中澤　登	
		橋詰勝子	橋詰信子	清水律子	大矢志慕	
		松本仁宣	高野園美	箕輪由紀	堺　益子	

3．調査日誌

令和元年	12月13日	Ｋ’ｓオフィスより土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出。
	3月20日	長野県教育委員会へ市教育委員会より元佐教文振第1501-2号土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知について(副申)
	3月25日	長野県教育委員会より元教文第７－1639号にて周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)
令和２年	3月18日	Ｋ’ｓオフィスより埋蔵文化財調査費概算見積依頼が提出。
	4月２日	Ｋ’ｓオフィスと市教育委員会により埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結
	4月28日～５月14日	記録保存目的による開発対象地の発掘調査を行い、引き続き報告書作成業務を行う。

令和３年３月　　調査報告書を刊行する。
　　記録類・出土品を整理保管
　　しすべての業務を終了する。

４．遺構・遺物の概要

遺構　竪穴住居址２軒（平安）　土坑 13 基
　　竪穴建物址３基（中世）
　　溝状遺構　３本　　周溝墓　２基
遺物　土師器・須恵器（坏・甕）　古銭

５．標準土層

今回の調査地点は南西方向に僅かに傾斜する台地上で、基本層序は２層に分かれる。Ⅱ層上面が遺構確認面である。確認面深さは地表より 30 ～ 50cmほどであった。

第Ⅰ層　10YR4/1　褐灰色土 耕作土
第Ⅱ層　10YR5/6　黄褐色土　浅間Ｐ１層

６．調査の方法

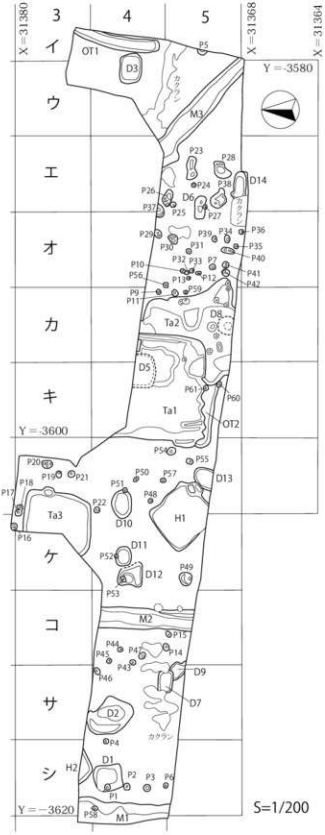
遺構調査・遺構測量

住居址は均等に４分割し、対面する２区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・カマド等を適宜分割し、土層の観察･記録を行い、最終的に平面の記録を行った。

遺物は分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続する№を付け３次元の記録を行い取り上げた。土坑は長軸方向に沿って２分割し、半裁により土層の観察･記録を行った後完掘した。遺物は遺構№で一括した。溝址は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。遺構外の遺物はグリット毎に取り上げた。平面図・断面図ともに調査区内に設定した基準杭を利用した遣り方測量により調査担当及び調査員が実施し、縮尺は 1/20 を基本とした。

遺構・遺物の整理等

遺物洗浄は竹ブラシを用い手でおこない、室内で乾燥させた。注記は白色のポスターカラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。遺物接合はセメダインＣを使用し、遺物復元の際の充当材はエポキシ系樹脂を用いた。遺物実測は手取りで行った。遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。



第３図　道常遺跡Ⅴ調査全体図

遺構図面は 1/20 で測量実測した図を 1/40 で修正し、遺物は 1/1 で実測し、それぞれ仮図版を作成した。

写真・報告書

現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによるＲＡＷ画質モードと、35㎜一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。

遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、ＥＰＳデータ形式で報告書に使用した。報告書挿図はアドビ社製の「イラストレーター」で作成し、表についてはマイクロソフト社の「エクセル」で作成した。写真･拓本はアドビ社製「フォトショップ」により補正加工を行った。これらを最終的に「インデザイン」により頁単位で編集し、印刷原稿とした。

第Ⅱ章　遺構と遺物

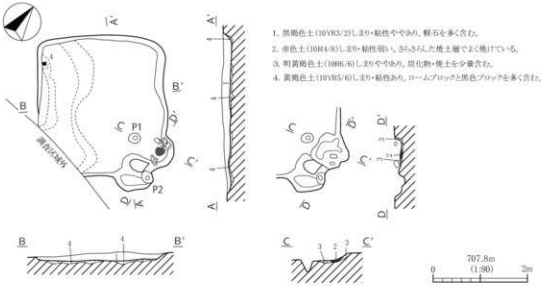
１．竪穴住居址

(１)Ｈ１号住居址

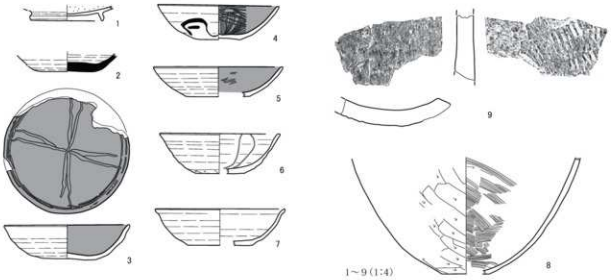
本址は調査区中央で検出された。住居南コーナー部分が一部調査区外となる。形態は方形で、長軸方位はＮ－ 42°－Ｗを測る。規模は南北長 2.84 m、東西長 2.56 mを測る。床面積は検出部で 6.44 ㎡である。壁の高さは西壁よりで 0.15 mを測る。ピットは掘方時も含め２ヶ所で検出された。規模はＰ１は径 0.24 m・深さ 0.22 m、Ｐ２は径 0.25 m・深さ 0.28 mを測る。床は軟質で顕著な硬化面はカマド周辺しか検出されなかった。

カマドは住居南東コーナー部で検出した。構築方法は袖部分が転石と粘土で被覆し形を整えていたと考えられるが、原位置を留めている構築材は無かった。火床部はよく焼けており、焼土の厚みは 0.04 mを測る。

出土遺物は覆土及びカマドを中心に出土した。特にカマド周辺からは８の土師器甕が破片で多く出土している。図示したのは９点である。１は灰釉陶器皿で底部外面はよく擦れている。２は須恵器坏、３～７は土師器坏であり、４は体部外面に判読不明の墨書が確認された。９は平瓦で、タタキと布目痕が確認できる。本址はこれら出土遺物より、10 世紀代に位置づけられると考えられる。



第４図　Ｈ１号住居址実測図

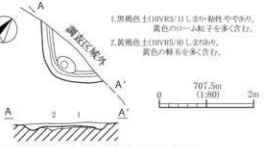


第５図　Ｈ１号住居址出土遺物実測図

(２) Ｈ２号住居址

本址は調査区西よりで検出された。住居南コーナー部分のみの検出である。形態は不明で、規模は検出された部分が長軸長 0.86m、短軸長 0.59m で、面積は 0.35 ㎡、壁は 0.07m を測る。壁には壁溝が巡り、コーナー部分にピットが１ヶ所検出された。ピットの規模は径 0.44m・深さ 0.17m を測る。

本址からの出土遺物は非常に少なく、土師器坏片と土師器のいわゆるロクロ甕と呼ばれる破片が出土したのみである。よって本址の所産時期は不明である。



第６図　Ｈ２号住居址実測図

２．竪穴建物址

(１) Ｔａ１号建物址

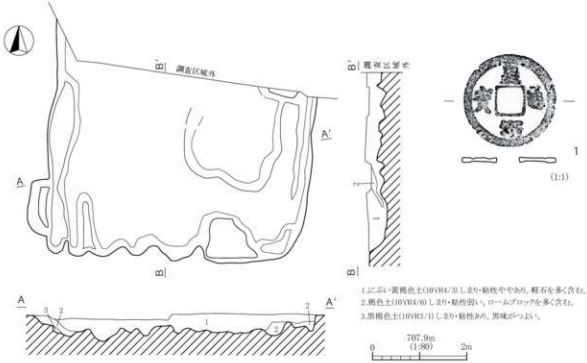
本址は調査区中央で検出された。形態は長方形と考えられるが北側が調査区域外となる。長軸方位はＮ－３°－Ｅを測る。規模は検出南北長 3.59 m、東西長 5.47 mを測る。床面積は検出部で 18.77 ㎡である。壁の高さは西壁北よりで 0.46 mを測る。床は軟質で凹凸が激しかった。

本址からの出土遺物は図示した古銭の他に土鍋片、カワラケ片、染付を含む近世陶磁器片等があったがいずれも小片で図示はできなかった。本址はこれらの出土遺物から近世の構築時期が推定できる。

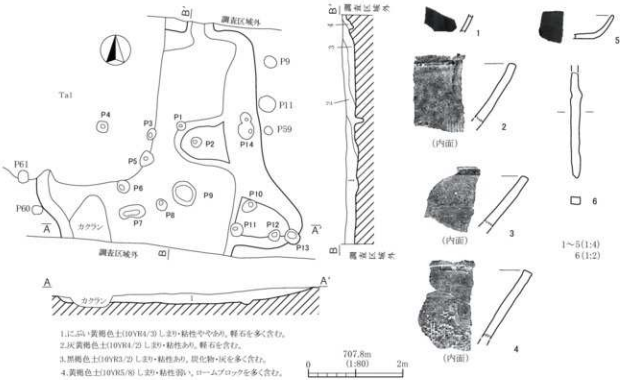
(２) Ｔａ２号建物址

本址は調査区中央で検出された。形態は不整形と考えられ、北西側がＴａ１号建物址により削平されている。長軸方位はＮ－９°－Ｗを測る。規模は検出南北長 5.05 m、東西長 4.81 mを測る。床面積は検出部で 13.08㎡である。壁の高さは南東壁よりで 0.29 mを測る。床は一部で硬質化していた。本址からはピットが１４ヵ所確認された。いずれも小型の方形を基調とするピットであり、深さは 0.13 ～ 0.58m を測る。

本址からの出土遺物は６点を図示した。１は青磁碗片、２～４は瓦質のすり鉢で、２は片口部が確認できる。５はいわゆるカワラケであり、胎土はよく精錬されている。６は釘と考えられる。本址はこれらの出土遺物から中世の構築時期が推定できる。



第７図　Ｔａ１号建物址及び出土遺物実測図

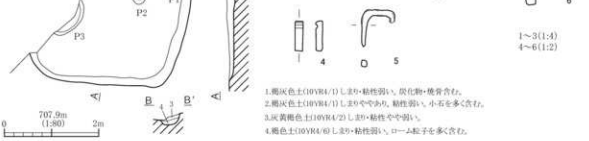


第８図　Ｔａ２号建物址及び出土遺物実測図

3）Ｔａ３号建物址

本址は調査区中央北よりで検出された。形態は方形と考えられ、西側が調査区域外となる。長軸方位はＮ－７°－Ｅを測る。規模は南北長 3.17 m、検出された東西長 2.13 mを測る。床面積は検出部で 7.1㎡である。壁の高さは北壁で 0.13 mを測る。床は一部で硬質化していた。本址からはピットが３か所確認された。ピットの規模はＰ１が径 0.67m・深さ 0.14m を測る。Ｐ２が径 0.23m・深さ 0.22m を測る。Ｐ３が径 0.94m・深さ 0.28m を測る。

本址からの出土遺物は６点を図示した。１と２はいわゆるカワラケである。いずれも胎土はよく精錬されている。３は砥石と考えられるが、石材はやや硬質で磨石的は使用方法の石製品とも考えられる。５と６は鉄製品で、６は釘と考えられる。４は石製品と考えられ、面取りが施されているが種別や使用方法は不明である。本址はこれらの出土遺物から中世の構築時期が推定できる。



第９図　Ｔａ３号建物址及び出土遺物実測図

３．土　坑

（１）Ｄ１号土坑

本址は、調査区の西よりで検出された。形態は方形で、規模は長軸長 1.48 m、深さ 0.17 mを測る。出土遺物は須恵器坏片が出土した。

（２）Ｄ２号土坑

本址は、調査区の西よりで検出された。規模は長軸長が 2.63 m、深さ 0.48 mを測る。出土遺物は土師器坏と甕片が出土した。形態的に風倒木址と考えられる。

（３）Ｄ３号土坑

本址は、調査区の東よりで検出された。形態は長方形で、規模は長軸長 1.63 m、深さ 0.5 mを測る。出土遺物は須恵器坏片、土師器坏片が出土した。

（４）Ｄ５号土坑

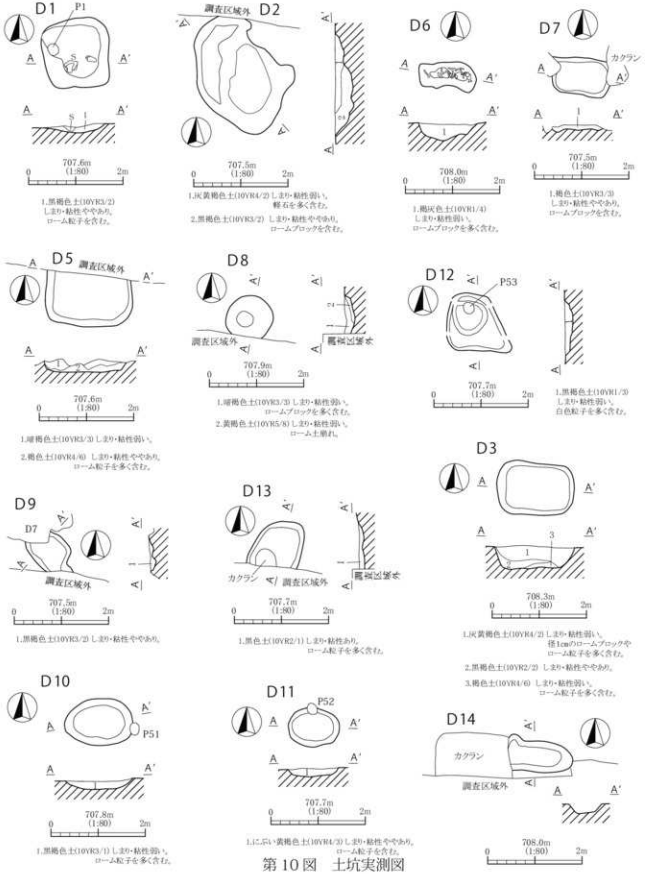
本址は、調査区の中央で検出された。形態は方形と考えられ、規模は東西長 1.78 m、深さ 0.46 mを測る。出土遺物はカワラケが一片出土した。所産時期は中世と考えられる。

（５）Ｄ６号土坑

本址は、調査区の東よりで検出された。形態は不整形で、規模は長軸長 1.26 m、深さ 0.36 mを測る。土坑中央部より獣骨が出土した。

（６）Ｄ７号土坑

本址は、調査区の西よりで検出された。形態は方形と考えられ、規模は長軸長 1.26 m、深さ 0.12 mを測る。出土遺物は土師器甕片が出土した。

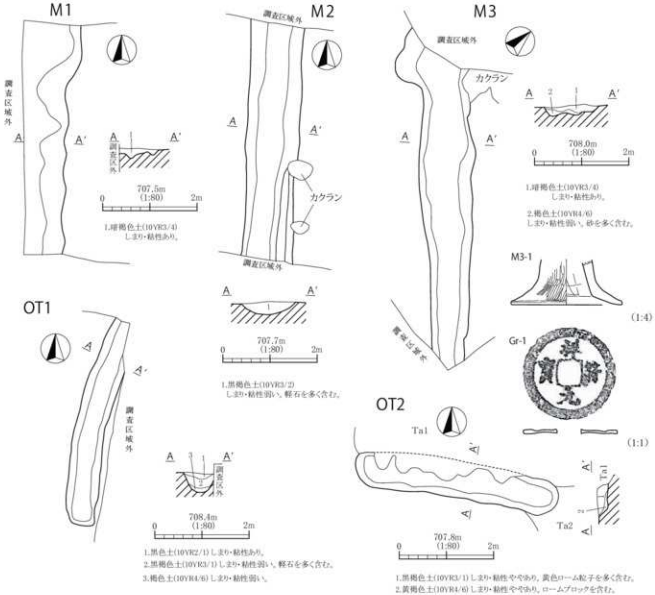

D1
P1
A
A'
S
1
707.6m
(1:80)
0
2m
1.黒褐色土(10YR3/2)
しまり・粘性ややあり。
ローム粒子を含む。
調査区域外
D2
707.5m
(1:80)
1.灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い。
輝石を多く含む。
2.黒褐色土(10YR3/2) しまり・粘性やや弱い。
ロームブロックを含む。
D6
708.0m
(1:80)
1.暗灰色土(10YR1/4)
しまり・粘性弱い。
ロームブロックを多く含む。
D7
カクラン
707.5m
(1:80)
1.褐色土(10YR3/3)
しまり・粘性やややあり。
ロームブロックを含む。
D5
調査区域外
707.6m
(1:80)
1.暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性弱い。
2.褐色土(10YR4/6) しまり・粘性やややあり。
ローム粒子を多く含む。
D8
調査区域外
707.9m
(1:80)
1.暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性弱い。
ロームブロックを多く含む。
2.黄褐色土(10YR5/8) しまり・粘性弱い。
ローム土塊れ。
D12
P53
707.7m
(1:80)
1.黒褐色土(10YR1/3)
しまり・粘性弱い。
白色粒子を多く含む。
D3
3
1
708.3m
(1:80)
1.灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い。
径1cmのロームブロックや
ローム粒子を多く含む。
2.黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性やややあり。
3.褐色土(10YR4/6) しまり・粘性弱い。
ローム粒子を多く含む。
D9
D7
707.5m
(1:80)
1.黒褐色土(10YR3/2) しまり・粘性やややあり。
D13
カクラン
707.7m
(1:80)
1.黒色土(10YR2/1) しまり・粘性あり。
ローム粒子を多く含む。
D10
P51
707.8m
(1:80)
1.黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性弱い。
ローム粒子を多く含む。
D11
P52
707.7m
(1:80)
1.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やややあり。
ローム粒子を含む。
D14
カクラン
708.0m
(1:80)

第10図　土坑実測図

（7）Ｄ８号土坑
本址は、調査区の東よりで検出された。形態は円形で、規模は深さ 0.47 mを測る。出土遺物は無く、所産時期は不明である。
（8）Ｄ９号土坑
本址は、調査区の西よりで検出された。Ｄ７に一部削平されている。規模は深さ 0.12 mを測る。出土遺物は須恵器坏片、土師器坏片、土師器甕片が出土した。
（9）Ｄ 10 号土坑
本址は、調査区の中央で検出された。形態は楕円形で、規模は長軸長 1.44 m、深さ 0.18 mを測る。出土遺物は須恵器坏片、土師器甕片が出土した。
(10) Ｄ 11 号土坑
本址は、調査区の中央で検出された。形態は楕円形と考えられ、規模は長軸長 1.08 m、深さ 0.17 mを測る。出土遺物は須恵器坏片、土師器坏片、土師器甕片が出土した。
(11) Ｄ 12 号土坑
本址は、調査区の中央で検出された。形態は不整形で、規模は長軸長 1.22 m、深さ 0.18 mを測る。出土遺物は無かった。
(12) Ｄ 13 号土坑
本址は、調査区の中央で検出された。形態は方形と考えられ、規模は東西長 1.08 m、深さ 0.13 mを測る。出土遺物は無かった。
(13) Ｄ 14 号土坑
本址は、調査区の東よりで検出された。形態は楕円形と考えられ、規模は南北長 0.67 m、深さ 0.22 mを測る。出土遺物は無かった。

４．溝状遺構
（1）Ｍ１号溝状遺構
本址は、調査区の西よりで検出された。調査区を南北に貫くように検出された。溝の底面は凹凸が激しく、流水等の痕跡は確認されなかった。規模は検出長 4.93m、深さ 0.09 ～ 0.24 mを測る。溝底面は南の方が低かった。出土遺物は須恵器甕片、土師器甕片が出土した。
（2）Ｍ２号溝状遺構
本址は、調査区の中央で検出された。規模は検出長 5.1 m、幅 1.07 ～ 1.11m、深さ 0.21 ～ 0.26 mを測る。形状は逆台形で、溝底面は平坦であった。出土遺物は土師器甕片が出土した。
（3）Ｍ３号溝状遺構
本址は、調査区の東よりで検出された。規模は検出長 6.63 m、幅 0.67 ～ 1.45m、深さ 0.14 ～ 0.20 mを測る。覆土には砂が検出された。出土遺物は図示した土師器高坏脚があった。

５．周溝墓
（1）ＯＴ１号周溝墓
本址は、調査区の東端で検出された。南北方向に延びるように検出された。規模は検出長 4.39m、幅 0.59 ～ 0.67m、深さ 0.27 ～ 0.40 mを測る。溝底面は平坦であった。本址は東側に接する区画整理事業時の発掘調査（市報告書第 240 集掲載）のＯＴ 24 の一部と考えられ、形態は円形周溝墓として捉えられる。、出土遺物は無かった。
（2）ＯＴ２号周溝墓
本址は、調査区の中央で検出された。Ｔａ１に削平され、南側が調査区域外となる為全容は把握できなかったが、形態より周溝墓の一部と判断した。規模は検出長 4.35 m、幅 0.72 ～ 0.75m、深さ 0.16 ～ 0.20 mを測る。溝底面は平坦であった。出土遺物は弥生土器（箱清水式）壺片が出土した。



第 11 図　溝状遺構・周溝墓及び検出遺物実測図

6．ピット

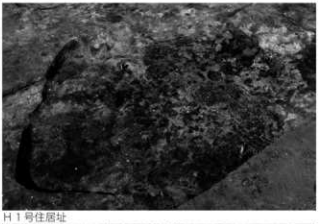
今回の発掘調査では 60 基の単独ピットを検出した。いずれも小型で、形態は円形が主体で、方形のピットも一部見られた。調査範囲の関係で掘立柱建物址になるものは無かったが、Ｐ１～Ｐ３とＰ６は南北に一列に並び柵列の状況を示していた。出土遺物はＰ 20・25 から土師器甕のいわゆる武蔵甕片、Ｐ 30･41 から土師器坏片、Ｐ 31 から須恵器坏片が出土した。図示できるものは無かった。

第Ⅲ章　調査のまとめ

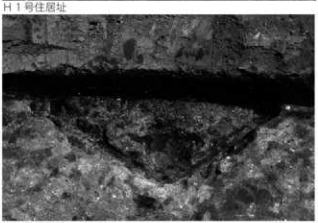
今回の発掘調査は 245㎡という限られた面積の調査であったが、周辺地域の調査を補う形で幾つかの調査成果があった。それらを列記して調査のまとめとしたい。

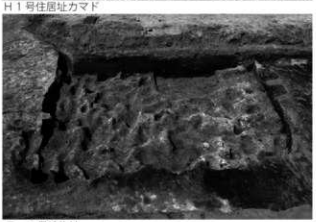
まず第一は OT1 の検出である。先にも触れたが今回の調査を行ったことにより円形周溝墓であり尚且つブリッジが存在する事が確認できたことは大きな成果である。また、中世の遺構が検出されたことにより道常Ⅱ地点やⅢ地点と同じく中世の活動領域が南に広がることが確認された点も成果として挙げられる。以上雑駁ではあるが調査のまとめとしたい。

図版　1


Ｈ１号住居址

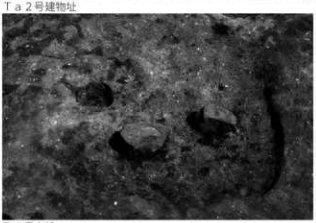
Ｈ１号住居址カマド


Ｈ２号住居址

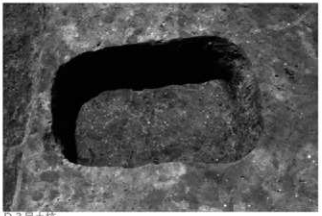

Ｔａ１号建物址

Ｔａ２号建物址

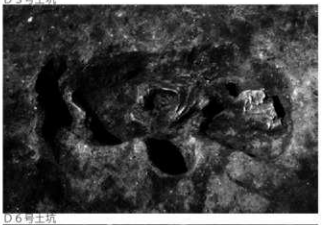
Ｔａ３号建物址

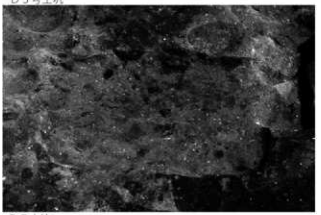

Ｄ１号土坑

Ｄ２号土坑

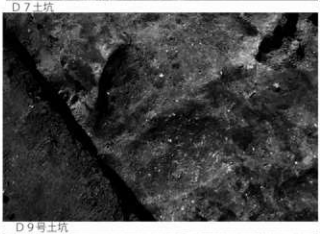

D 3 号土坑

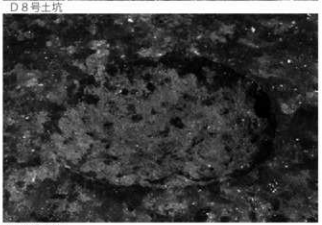
D 5 号土坑

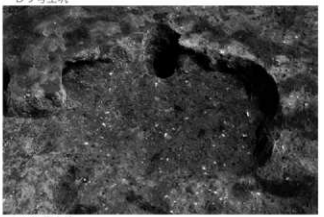

D 6 号土坑


D 7 土坑

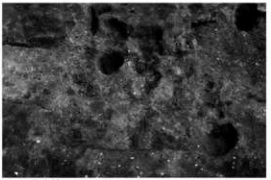
D 8 号土坑


D 9 号土坑

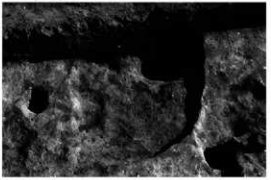

D 10 号土坑


D 11 号土坑

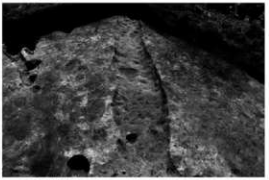
図版　3



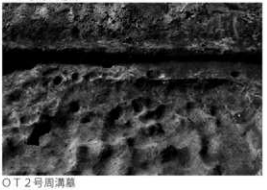
D 12号土坑



D 13号土坑



M 3号溝状遺構

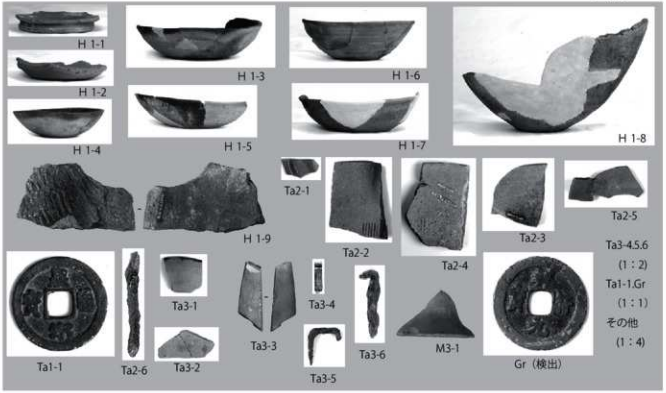


ＯＴ２号周溝墓

M1 号溝状遺構

M 2号溝状遺構

ＯＴ１号周溝墓



ピット計測表

（○推存　（単位 cm）

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	備考
P1	シ-4	27.0	24.0	27.0	円形	10YR2/1ローム多。D1を切る。
P2	シ-4	30.0	27.0	45.0	円形	10YR2/1ローム多。
P3	シ-4	37.0	35.0	15.0	円形	10YR2/1ローム多。
P4	サ・シ-4	25.0	24.0	10.0	円形	10YR2/1ローム多。
P5	イ-5	46.0	(35)	21.0	－	10YR2/1ローム多。
P6	シ-4	30.0	25.0	14.0	円形	10YR2/1ローム多。
P7	オ-5	39.0	26.0	22.0	円形	10YR2/1ローム多。
P8	欠番					
P9	カ-4	25.0	25.0	11.0	円形	10YR2/1ローム多。
P10	オ-5	23.0	20.0	15.0	円形	10YR2/1ローム多。
P11	カ-5	35.0	33.0	14.0	方形	10YR2/1ローム多。
P12	オ-5	23.0	22.0	19.0	方形	10YR2/1ローム多。
P13	オ-5	22.0	19.0	10.0	円形	10YR2/1ローム多。
P14	コ-4・5	36.0	27.0	23.0	円形	10YR2/1ローム多。
P15	コ-5	34.0	27.0	28.0	円形	10YR2/1ローム多。
P16	ケ-2・3	38.0	30.0	20.0	－	10YR2/1ローム多。
P17	ク-2・4 ケ-3	33.0	24.0	28.0	円形	10YR2/1ローム多。
P18	ク-3	42.0	22.0	34.0	円形	10YR2/1ローム多。
P19	ク-3	37.0	22.0	23.0	円形	10YR2/1ローム多。
P20	ク-3	52.0	26.0	33.0	不整形	10YR2/1ローム多。
P21	ク-3	41.0	35.0	25.0	円形	10YR2/1ローム多。
P22	ク-4	29.0	28.0	37.0	円形	10YR2/1ローム多。
P23	エ-5	126.0	52.0	35.0	不整形	10YR2/1ローム多。
P24	エ-5	26.0	23.0	9.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P25	エ-5	30.0	28.0	30.0	円形	10YR2/1ローム多。
P26	エ-4・5	95.0	42.0	29.0	不整形	10YR2/1ローム含む。
P27	エ-5	27.0	25.0	25.0	円形	10YR2/1ローム多。D6に切られる。
P28	エ-5	87.0	57.0	27.0	不整形	10YR2/1ローム含む。
P29	オ-4	47.0	30.0	22.0	－	10YR2/1ローム含む。
P30	オ-5	43.0	37.0	28.0	不整形	10YR2/1ローム含む。
P31	オ-5	29.0	26.0	22.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P32	オ-5	29.0	23.0	14.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P33	オ-5	29.0	19.0	14.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P34	オ-5	39.0	25.0	25.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P35	オ-5	24.0	22.0	17.0	方形	10YR2/1ローム含む。
P36	オ-5・6	29.0	25.0	11.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P37	エ・オ-4	53.0	(37)	19.0	－	10YR2/1ローム含む。
P38	エ-5	115.0	78.0	28.0	不整形	10YR2/1ローム含む。
P39	オ-5	33.0	30.0	15.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P40	オ-5	67.0	35.0	26.0	－	10YR2/1ローム含む。
P41	オ-5	40.0	31.0	26.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P42	オ-5	43.0	32.0	62.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P43	コ-4	32.0	29.0	36.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P44	コ-4	25.0	24.0	15.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P45	コ-4	27.0	24.0	33.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P46	サ-4	(36)	31.0	33.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P47	コ-4	39.0	35.0	18.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P48	ク-4	27.0	26.0	13.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P49	ケ-5	72.0	64.0	53.0	不整形	10YR2/1ローム含む。
P50	ク-3	45.0	24.0	22.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P51	ク-4	25.0	20.0	15.0	円形	10YR2/1ローム含む。D10を切る。
P52	ケ-4	27.0	20.0	28.0	円形	10YR2/1ローム含む。D11を切る。
P53	ケ-4	27.0	22.0	30.0	円形	10YR2/1ローム含む。D12を切る。
P54	ク-5	45.0	45.0	15.0	円形	10YR2/1ローム含む。
P55	ク-5	37.0	32.0	21.0	円形	10YR2/1ロム含む。
P56	オ・ウ-5	25.0	24.0	36.0	方形	10YR2/1ローム含む。
P57	ク-4	24.0	23.0	43.0	方形	10YR2/1ローム含む。
P58	シ-4	29.0	22.0	32.0	円形	M1に切られる。
P59	カ-5	19.0	18.0	23.0	方形	
P60	キ-5	23.0	20.0	16.0	円形	OT2を切る。
P61	キ-5	27.0	21.0	29.0	円形	OT2を切る。Ta1に切られる。

報告書抄録

ふりがな	すぼうばたいせきぐん　どうじょういせきご
書　名	周防畑遺跡群　道常遺跡Ⅴ
副書名	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第275集
シリーズ番号	第275集
編著者名	冨沢　一明
編集機関	佐久市教育委員会　社会教育部　文化振興課
所 在 地	長野県佐久市中込2913　TEL0267-63-5321　FAX0267-63-5322
発行年月日	2021年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
すぼうばたいせきぐん どうじょういせきご 周防畑遺跡群 道常遺跡Ⅴ	さくしながとろ あざどうじょう 佐久市長土呂 字道常1254	20217	7	36°16.57	138°27.35	20200428 ～ 20200514	245	宅地造成 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
周防畑遺跡群 道常遺跡Ⅴ	集落址	平安 中世	竪穴住居址　2軒 竪穴建物址　3基 溝状遺構　3本 土　坑　13基 周溝墓　2基	土師器 須恵器 石製品 鉄製品 古銭	

要　約	周辺の調査事例と同様に平安時代と考えられる住居跡、及び中世と考えられる竪穴建物址が検出された。また、東側の調査成果とつながる円形周溝墓の一部が確認された。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第275集
周防畑跡群　道常遺跡Ⅴ
2021年　3月
編集・発行　佐久市教育委員会
〒385-8501　長野県佐久市中込3056
社会教育部　文化振興課　文化財事務所
〒385-0051　長野県佐久市中込2913
℡0267-63-5321
印刷所　キクハラインク有限会社